

気象変動に負けないコシヒカリを作ろう!! ~「R7 JAなのはな米品質向上運動」実施中~

- ・令和7年産米は、高品質な「なのはな米」を安定的に生産するため、改めて基本技術を励行しましょう。
- ・コシヒカリは、高温登熟による白未熟粒の発生を避けるため、5月15日を中心とした田植えを基本とし、田植時期に合わせた計画的な育苗作業を行いましょう。

1. コシヒカリの育苗計画

消毒	浸種開始	播種	田植え	(育苗日数)	出穂期
4/7(月)	4/8(火)	4/19(土)	5/10(土)	(21日)	7/31頃
4/16(水)	4/17(木)	4/26(土)	5/15(木)	(19日)	8/3頃
4/25(金)	4/26(土)	5/3(土)	5/20(火)	(17日)	8/7頃

※密苗の場合、育苗日数は16日程度(14~18日)となるよう計画しましょう

◎10年以上前の育苗期間と比べ、平均気温が1℃程度高く、日射量が多くなっているため、今までの育苗日数では軟弱徒長になりやすいです。

◎育苗日数が長い苗(老化苗)は、
①初期分げつが発生しにくい、昨年のように穂数が確保できず、収量が少なくなる
②出穂が早まり、高温登熟になりやすい
→このため、
田植日から逆算した計画的な育苗で老化苗を防止しましょう。



2. 育苗スケジュールと作業内容

※育苗期間は、細菌性病害の発生やヤケ苗・軟弱徒長防止対策として、目安の温度より高温にならないように管理しましょう。

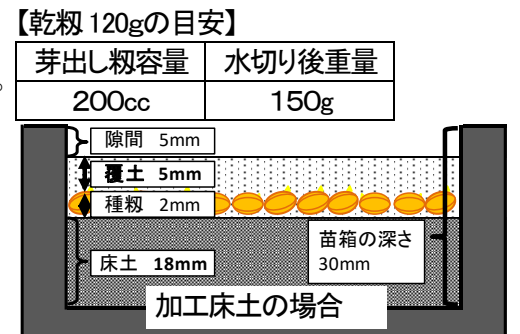
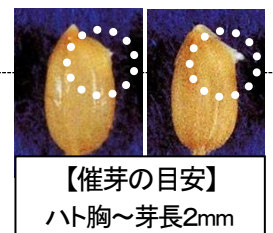
月日	作業	温度管理	作業管理のポイント																		
4/16	比重選 種子消毒	水温10℃以上を確保 (12℃が最適)  種子消毒は確実に!	① 比重選で種籾を厳選 ~発芽不揃いや病気をしっかり予防~ ・ 硫安による発芽障害を防ぐため、比重選した種籾はすぐ水洗いする。 ② 種子消毒の徹底で病害を予防 ~必ず化学農薬で消毒~ ・ モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬する。 (種籾10kgに対し、水20ℓ、薬剤100gの割合とする。) ・ 特に水稻種子生産ほ場周辺地域では、種子伝染性病害発生防止のため確実に行う。 ・ 水和剤は溶けにくい、薬液の調製時は少量の水またはぬるま湯で糊状にしたのち、所定量の水に攪拌しながら溶かす。 ・ 種籾は水切りをよく行ってから消毒液に漬け、2~3回上下に動かし、種籾を完全に浸漬する。																		
4/17	浸種	水温10~15℃を確保	③ 浸種は積算温度(100~120℃)を十分に確保 ~水温をしっかり確保~ ・ 水温は10~15℃とし、籾容量の2倍の水に浸漬する。 特に浸種開始日の水温は、出芽を揃えるため12~13℃を確保する ・ 浸種桶は、直接日光が当たらない場所に設置する。 ・ 水の交換は2日に1回行い、酸素不足を防ぐ。 ・ 浸種後半は、籾の状態をこまめに確認し、芽の伸長が予定より早まった場合は、速やかに冷水に浸ける。																		
※浸種の開始を早めない! 水温が10℃未満では出芽が不揃いになります。早くから冷たい水に漬けるのではなく、適温の水に10日程度しっかり漬けて積算温度を確保しましょう。			④ 芽の長さをこまめに確認 ・ 籾袋は、芽の長さを揃えるため1日2~3回反転する。 ・ 種籾の水切り(脱水)は十分に行い、籾が手に付かない程度まで陰干しを行う。																		
4/25	催芽	育苗器温度 28~30℃で 20~24時間	⑤ 播種量はうす播き(乾籾120g/箱)が基本 ・ 播種時の灌水量は、床土の表面に水がにじみ出る程度とする。 ・ 培土の充填程度は、床土と覆土とあわせて25mm程度とし、保水のため育苗上部に5mm程度の隙間を設ける。 ⑥ 育苗器の温度は30℃を超えない ・ サーモスタットの温度計を事前に確認する。 ・ こまめに温度や出芽状況をチェックする。																		
4/26	播種 出芽	120g播  育苗器温度 30℃で2~3日	⑦ 芽の長さが1cmに揃ったら搬出 ・ 搬出直後は、覆土を落ち着かせる程度に必ずかん水する。 ・ 日差しが強くハウス内が高温になる場合は、搬出直後でも換気を行い、ハウス内温度が25℃以上にならないよう管理する。 ・ 緑化完了後は、軟弱徒長苗とならないよう、速やかに被覆資材をはずす。 ・ 育苗ハウスのビニールが新しい場合、光の透過率が高くヤケ苗になりやすいので注意する。																		
4/29	搬出 緑化	葉ヤケ 注意! ハウス内温度 昼: 25℃以下 夜: 10℃以上	搬出時に低温が予想される場合は、搬出を見送るか、搬出してもかん水をせずに被覆資材で保温に努める。																		
5/1	硬化		⑧ ハウス内の換気を徹底し、25℃以上にしない ・ かん水は朝にたっぷり行い、日中は床土の乾きに応じて行う。 (床土により水持ちや乾き方が異なるため、床土を変更した場合は特に注意) ・ 田植えの7~10日前からは昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす。																		
※ハウスの強風対策は万全に! 強風が予想される場合は、予め育苗ハウスのビニールや防風ネット等の損傷やゆるみなどを点検し、必要に応じて補強しましょう。			【育苗期間中の病害対策】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病害</th> <th>使用薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>散布量</th> <th>防除時期</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白カビ、青カビ</td> <td>ダコレート水和剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種14日後まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>ムレ苗、苗立枯病</td> <td>タチガレエースM液剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>発芽後</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数	白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内	ムレ苗、苗立枯病	タチガレエースM液剤	500倍	500cc/箱	発芽後	1回
対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数																
白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内																
ムレ苗、苗立枯病	タチガレエースM液剤	500倍	500cc/箱	発芽後	1回																
5/15	田植え		灌水に用水路の水を用いる場合は、ムレ苗の発生に注意する																		

【比重選の液の作り方】

種籾	比重	硫安(水10ℓに)
うるち	1.13	2.5kg
もち	1.08	1.5kg

【浸種日数の目安】

水温	浸種日数
10℃	10~12日
15℃	7~8日



春の土づくり

～気象変動に負けない稲体づくりは、「土づくり」から～



- ・高品質で美味しい米を安定的に生産するためには、高温や多雨等の気象変動に打ち勝つ「強い稲体づくり」が大切で、その土台となる「根」を育てる「土づくり」が重要です。
- ・土づくり資材や有機物の施用、深耕など「春の土づくり」を積極的に行い、地力の向上に努めましょう。

1. 土づくり資材の施用

- ・ケイ酸は稲の茎葉を丈夫にし、葉を直立させる効果や病害虫に対する抵抗性を高めるなど、収量・品質の向上に効果が高い成分です。また、近年、発生が増加している「ごま葉枯病」(下図参照)は、ケイ酸やカリ、鉄分等の不足による地力の低下で発生が増加します。
⇒ 昨年秋に土づくり資材を施用していない場合は、春の耕起前に確実に施用しましょう。
- ・腐植が少ない砂壤土のほ場では、発酵鶏ふんなどの有機物を積極的に施用し、地力の維持・向上(リン酸やカリ等の補給効果もあり)に努めましょう。
- ・土づくりは、毎年継続することで効果が発揮されます。毎年度必ず継続して行いましょう。

【土づくり資材及び堆肥施用の目安】…目安施用量以下の散布では、散布効果がありません

資材名	10a 当たり施用量	特性等
珪酸石灰	200kg	ケイ酸を多く含み、水稻に施用すると葉や稈が丈夫になり、耐倒伏性やいもち病などの耐病性が向上します。
シリカロマン	100kg	ケイ酸、アルカリ分、リン酸、苦土、鉄分などが一度に散布できます。茎葉を丈夫にし、病害虫に対する抵抗性を高め、倒伏に強くなります。
シンキョーライトP	60kg	含有成分のゼオライトは保肥力を高めます。根張りを良くし、収量と品質の向上につながります。
新アサヒニューテツ	100～150kg	ケイ酸のほか、鉄分を多く含み、ごま葉枯病が多発するなど鉄不足のほ場に適した資材です。
スーパーけいさん鉄	100kg	ケイ酸のほか、鉄分、苦土を多く含んだ資材です。アルカリ分も高く、土壌の酸度矯正につながります。
発酵鶏ふん(春施用)	75～100kg	腐植含量を高め、保肥力や保水性、通気性を高めます。速効性の肥効があり、リン酸やカリの補給ができます。

※発酵鶏ふんを春施用する場合は、基肥を窒素成分で1～2kg/10a 減肥する。

(例) Jコートコシヒカリ1号: 35kg/10a 施用の場合は、25kg～30kg/10a 程度に減肥する。



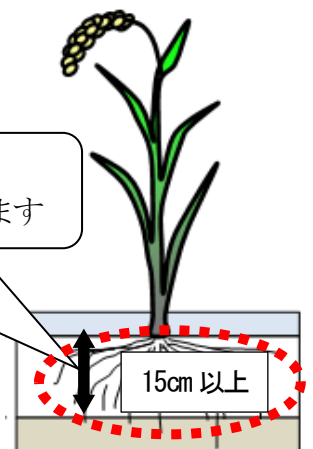
図 ごま葉枯病の病斑
(地力の低下が原因)

近年広範囲で増加中!

2. 深耕の実施

- ・作土深を確保しているほ場は、根圏が広く十分に根が伸長します。深く伸びた根は収穫まで稲体の活力を維持するため、収量・品質の向上につながります。
- ・春耕は、トラクターの耕うん速度を落としてロータリーをかけたり、プラウ等を活用して15cm以上の作土深を確保しましょう。

作土層が浅いと、根が十分伸長せず、気温や水分変化の影響を受けやすくなります



春の農作業安全運動 令和7年3月1日～5月31日

「農作業事故ゼロを目指して、事故防止対策を徹底しましょう！」

- ・農場や農道などの危険箇所を事前に確認し、改善に努めましょう
- ・余裕をもった作業計画を立て、複数人での作業を心がけましょう
- ・各作業に応じた服装、保護具(ヘルメットなど)を着用しましょう
- ・トラクターの乗車時にはシートベルトを使用しましょう
- ・機械等の使用前には点検整備を徹底しましょう



なのはな農協では、皆様に電子メールによる営農情報の提供を行っています。

【情報提供内容】

- ・栽培管理情報
- ・緊急的な気象情報と災害防止対策
- ・緊急的な管理情報
- ・その他必要と思われる情報

営農情報提供サービスの登録はこちらから

スマホ等で左のコードを
読み込み必要な情報を登録して
ください



http://argo-navi.net/ja/mb_login.pnp

【提供情報の例】

- ・春の作業として、土づくりを行いましょう。
- ・地力向上のため、昨秋に土づくり資材や発酵鶏ふん等の有機物を施用していないほ場は、必ず施用しましょう。
- ・今後の育苗作業は、5月15日を中心としたコシヒカリの田植えに合わせて計画的に行いましょう。